

編集後記

新型コロナ第7波が治まりマスク着用基準は緩和されましたが、人目が気になりなかなかマスクが外せないのが現状です。政府の全国旅行支援が開始されて国内旅行の予約が盛んになり、また入国制限も緩和されて急増する外国人観光客が、加速する円安を背景に桁違いな爆買いをしている様子が報道されています。一方、この冬は新型コロナウイルス感染症第8波とインフルエンザの同時流行の可能性も懸念されています。政府は医療の逼迫を回避すべく、同時流行に備えた対応として「新型コロナ・インフル同時流行対策タスクフォース」を立ち上げ、重症化リスクに応じた外来受診・療養の流れを整理しています。

「誌上ギャラリー」には山口先生から秋の光の中で紅葉の影に佇む磨崖仏の写真をご投稿いただきました。

「論説と話題」には鹿児島大学医学部微生物学分野の西順一郎教授から、「COVID-19の現状と今冬の流行への備えと展望」をご寄稿いただきました。COVID-19の現状を世界、わが国、そして鹿児島県についての詳細な分析とともに、治療・予防については外来治療薬、変異株対応ワクチン、小児用ワクチンなどの展望についての最新の知見をご教示いただきました。また今冬を迎えるに際しての備えについてもご提言されています。

「医師会病院だより」は消化器内科のご紹介です。病棟医4人で病棟・急患対応を行い、内視鏡検査・治療は病棟医と非常勤医師で行われています。令和3年度は外来患者数、入院患者数ともに減少しており、内視鏡検査数の減少も合わせて新型コロナ感染症の院内発生に伴う病棟閉鎖の影響もあった様です。また新型コロナ専用病床も有しており、専門科に拘らず新型コロナ感染患者の対応で忙しい日々を過ごされています。

「切手が語る医学」はフランスの赤十字

切手です。古庄先生にはいつも珍しい切手をご紹介いただき、感謝申し上げます。

「医事法判例百選」で考える異状死体の届出義務(2)では、「医事法判例百選」の第1版から第3版までに記載された異状死体の届出義務についての各版の論考についての考察と、東京都立広尾病院事件判決についての小田原先生の解釈が記されています。

粟先生の連載随筆「フランス・リストと聖エリザベト - 第1部、フランス・リスト、その11 - 」は今号も豊富な写真などの資料も添えてご寄稿いただきました。

「リレー随筆」には総合病院鹿児島生協病院の川口先生から「大相撲は群雄割拠の戦国時代～若隆景を横綱にする会～」をご寄稿いただきました。幼少時からの相撲観戦、英才教育に育まれた豊富な知識に裏付けられて、現在の相撲界に対する見解が論理的かつ科学的に熱く論じられています。若隆景がいつの日か大関、横綱になっていくことを願っています。

「各種報告」には令和4年度の鹿児島市学校糖尿病検診、学校腎臓検診、学校心臓検診について、各委員会の委員長からご報告いただきました。

「鹿市医郷壇」の兼題は「買物(けもん)」です。来年の兼題も掲載されましたので、皆様の薩摩郷句を奮ってご投稿して下さい。

旅行支援と水際対策の緩和で国内外の人の出入りが多くなり、今後の感染症の持ち込みリスクの増加が見込まれます。早めにインフルエンザワクチンと、オミクロン株「BA.5」対応ワクチンの接種を受けて、初めて経験するかもしれないコロナとインフルエンザの同時流行に備えて冬を迎えると思います。まだまだコロナとの戦いは終わりそうにありません。引き続き日頃の感染対策には努めつつ、まずは晩酌後、ソファーで寝入って風邪など引かない様に気を付けたいと思います。

(編集委員 森岡 康祐)